

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「話・和・輪」の理念に沿って、「のぞみの話・和」、「行事の輪・和」を広げている。	○ 地域への「話・和・輪」を広げていくよう努める。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニット・詰所に掲示し、常に意識し取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進委員会や家族会において、理念について説明。又、入所時にも説明している。	○ 地域へ理念を広めていけるような機会を作りたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時には挨拶は交わすが、日常的な付き合いが少ない。	○ 気軽に立ち寄れるような環境や機会を作りたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の神社の清掃に月2回取り組み、地域との交流を図っている。	○ 自治会等の活動情報をもらい、できることには参加したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社社の奉仕活動に取り組み、地域高齢者との関わる機会を持っている。	○	継続して取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について全職員で確認し、各ユニットリーダーを中心に自己評価をした。評価も全体会議で話し合い、ユニットで具体的な改善点をあげ取り組んでいる。	○	各職員が常に意識し、ケアの質の向上に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告し、各代表の方の意見を聴き会議記録に記載し、その後申し送り等をしているが、全職員に周知徹底できていない。	○	全職員への周知徹底ができるように申し送り等の検討。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吉野川市の運営推進委員会にメンバーとなり会議に参加する機会がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースは現在ない為、制度を理解している職員もいるが、理解できていない職員もいる。	○	権利擁護に関する制度の研修に参加し、理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、市町村の虐待委員会のメンバーとし参加。会議後は、申し送りをし、知識を深めている。まだ言葉の暴力等も見られる為、その都度声かけし、勉強も行っている。	○	市町村の委員会での状況・様子などを伝え、周囲への関心も深めたい。又、声かけの言葉については、その都度互いに注意しあう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際には、ゆっくりと契約書を見つつ説明している。又、解約時には、ご家族様の思い等もゆっくりと聴く時間を持っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「のぞみの話・和」で入居者様の意見を聴く機会を持っている。参加人数も増えてきている。日常でも、個別に気軽に話してもらえようコミュニケーションを図っている。	○	コミュニケーションを図ることの難しい入居者様の気持ちをくみ取り、反映できるように取り組む。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	連絡表・金銭管理表を作成し、報告したこと等を記載している。又、のぞみ便りも定期的に送付し、家族会でも職員の異動について報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて、意見等を聴いている。又、苦情・不満があった場合には記載し、全職員で改善策について話し合っている。苦情箱も設置している。	○	ご家族様同士での話し合える時間を家族会等に設けたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に発言しやすい環境づくりをすると共に、2ヶ月に1回必ず全体会議を開催し、意見を聴くようにしている。又、管理者は定期的に個別に話しする機会を設けている。	○	全職員で検討すべき課題が次第にあがってきたり、実行したら良いと思う案が出てき、「れっつトライ！(OJT)」として取り組んでいる為、継続していく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の状態やペースに合わせたローテーションを組み、ニーズに応えるよう勤務時間を工夫した。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長は固定し基本的に内部での異動は行っていない。またユニットの職員も大幅な異動は行わず固定するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てホーム長他、各スタッフがまんべんなく研修に参加できるよう努力している。 法人内に研修委員会があり定期的に院内研修会を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや市町村主催の委員会に参加し、情報交換の場を広げている。又、事例検討会に参加し、サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。	○ 交換研修の場を広げていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内に親睦会があり年1回研修旅行がある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は勤務状況を把握し、年2回自己の目標を立て成果レポートを提出し、努力している事に対して評価している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時には、事前にご家族様だけでなく、ご本人様の見学もあり、意向等を聴く機会を増やしている。	○ 入居するユニットで、ゆっくり話しができ、雰囲気味わってもらえるような時間を持てるよう工夫する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所時(相談時)に介護上の困りごと等について、話を伺っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には電話だけでなく、来所していただき話しを(数回でも)伺っている。場合によっては、他事業所のケアマネジャー・ソーシャルワーカー媒体になっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常に関わりを持てるよう環境にも配慮し、バックグラウンドアセスメント表等の活用。	○	事前の交流を深めるよう訪問したりする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	活動を一緒にする事により、「おばあちゃんの知恵袋」ではないけれど、学ぶ事がたくさんある。雑巾づくりを実施中。	○	喜や楽は表現しやすいが、怒や哀などメンタル面での共感や理解が難しい為配慮していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開催し、ご家族様の意向を聴き、ご家族様の立場になれるよう努めている。	○	全職員が全入居者様の近況などの報告ができるように把握していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への家族参加や外出・外食の機会が増えた。又、面会時には御家族様との時間ももてるように環境づくりしている。	○	面会が少ない入居者様も居る為、お便りを出したりとし、関係を築けるよう取り組む。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りに行ったり、外出時に知人・友人宅を訪問したりしている。	○	行事等、家族だけでなく、友人等にも参加してもらえるように取り組む。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が入居者様間の関係を把握しており円滑に関われるよう環境づくりをしている。又、入居者あんど入居者(トラブル)を記載し、相互関係を見極めケアの向上に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の病院への入院時には、見舞いに行ったり、病院内で出会った際に挨拶を交わしたり、近況を尋ねたりとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中から希望・意向を分析し、日々の表情・行動からも意思等をくみ取り、把握するよう努めている。	○	思いや希望を伝えられない入居者様の気持ちをくみ取れるよう、関わりを多く持つようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントの作成と共に家人との関わりを多く持ち情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活の中で残存機能が活かせるようにしている。	○	ゆっくりと関心や興味を持てるような環境づくりを増やしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の希望については、尋ねることもでき、記録もできているが、家族のカンファレンス参加の機会が少ない。	○	ご家族様のカンファレンス参加の工夫。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しはできているが、状態の変化等の際には、サービス内容の追加のみであり、十分な見直しができている。	○	期間にとらわれず、状態等の変化時には見直す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添っての個別のカルテを作成。又、同型のモニタリング表を作成した。	○	モニタリングやそれに関する書類の記載方法の見直しを考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、24時間駐住の医師・看護師で対応。当直看護師が巡視している。又、リハビリ希望のニーズにも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者様より、漬物漬けの希望があり地域住民の方に依頼し、一緒に漬物作りをしている。	○	地域資源が活用できるように取り組む。(図書館等)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容や訪問販売(パン)は利用しているが、公共施設が活用できていない。	○	作品展示の依頼等をし、公共施設を活用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に地域包括支援センターの職員が参加して下さり周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係が築きかけている。	○	運営推進委員会時のみならず、情報交換等できる機会を増やしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望するかかりつけ医にて受診。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳外科・精神科を受診し必要に応じ相談・アドバイス・手軽な療法を指導してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	外来看護師が兼務であるも、1日1回は来所し、日常の健康管理をしている。又、留意点・指示等はカルテに記載。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関・ソーシャルワーカーとの連携を図っている。又、入院時には面会に行き、家族との情報交換もしている。病院カンファレンスに参加。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関わる指針を作成し、状態の変化がある度、ご家族様・主治医・看護師を交えて話し合いを重ねている。	○	全職員が情報・方針が共有できるような方法を検討し取り組む。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時の対応に関し、ご家族様とも話し合いをし、意思確認している。又、入所時の初診には、ご家族様にも付き添ってもらっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活歴・生活環境・支援内容・注意点等を介護サマリーに記入し、情報交換している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員中心(本位)の見方で記録を記載しないよう、一人ひとりが気をつけている。	○ 職員間で気軽に注意しあえる環境づくり。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	更衣時の衣類の選択や食事の形状についてわかりやすいように選択肢とし、自己決定しやすいように配慮している。	○ 入居者様が主体の選択ができるように取り組みたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット全体ではあるが、「今日、何するで？」等と入居者様の意見を聴いている。	○ 個々の意見を聴けるよう取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧やカーラーで髪を巻いたりしている。又、行きつけの美容院にも行かれる入居者様もいる。	○ 訪問美容が1事業所である為、訪問美容所を増やしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は厨房でしているが、盛り付け・食事・片付けは一緒に行っている。又、主食には変化をつけ、目でも楽しめるよう工夫している。	○ 家庭的な食器に取り替えたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族様との連携を図り、好みの飲食物を持って来てもらい、常に飲食できるよう配慮している。(記名し、保管場所を伝える)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は布パンツ使用し、一人ひとり排泄リズムを把握し、適時声かけやトイレ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を午前中～就寝前とし、希望にそって入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	遅出勤務の時間を工夫した。又、入眠前のシャワー浴や温かい飲み物等をすすめ、心身共にリラックスできるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの入居者様に合った役割活動を支援している。その中で、次第に活力となり喜びとなっている。	○	支援はしているも、ハード面で取り組みが少ない部分もある為検討・工夫していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい為、家人希望にて預かり金としている。	○	入居者様間で金銭トラブルがあった為、殆どの入居者様が預り金となっているが再度御家族様と検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベランダの園芸活動や移動販売のパン屋への買い物にも出かけている。	○	意思伝達できていない入居者様への対応の工夫。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別あるいは他入居者様と共に「のぞみの話」とし、意見を聴き、行事(外食・ドライブ・奉仕活動)に取り組んでいる。	○	ご家族様との外出が一定の入居者様になっている為、他の入居者様のご家族様にも協力を得たい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レベル的に困難な為、取り組めていない。しかし、電話があった際には、電話対応できるよう環境作りしている。	○	下部(項目)64と関連性を図れるよう、ご家族様に電話の受付のできる事を伝えたり、趣味活動の一環とし絵葉書などの作成を考えていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めていない為、夜間でも気軽に面会あり。面会時には、ご本人様の好みの飲食物を提供する等し、和やかに過ごせるよう工夫している。	○	面会回数の少ない入居者様に対してのメンタル面のケアや、面会が増えるよう工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言動を抑制しないよう4ユニットの利点を活かし他ユニットとの連携を図っている。又、脳外科・精神科との連携も図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックであり施錠しているが、時間的に開放し、ベランダでの園芸活動を楽しむ。	○	長時間開放できるよう工夫したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	勤務時間を更に変則とし、入居者様がゆったりと自らのペースで且つ安全に生活できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	かぎ針等の趣味の物品は自己管理し、毎日居室チェック。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を基に、要因等の分析をし、再発防止に努めている。(SHELL分析)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時等には、その度職員に急変処置・対応を説明しているが、定期的な訓練・勉強会ができていない。	○	定期的な訓練・勉強会を開催し、全職員が対応できるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な火災訓練を実施。	○	独自の火災訓練や災害時の訓練も取り組みたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には、近況報告をし、状況・状態の変化が見られた際には、ご家族様に連絡(家人連絡簿)し、相談・対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎朝し、異変時等には外来に報告したり、看護師訪問時に報告、又、留意点をコメントとして記載してもらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報提供してもらい、個別に処方箋を管理している。	○	院外処方となっている為、常時薬の変更等に気をつける。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便チェック表作成し、一人ひとり排便リズムを把握している。又、毎日運動を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には口腔ケア施行。義歯はポリドントにて消毒もしている。	○	歯科衛生士の指導も定期的に取り入れたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表作成・食事の形状や飲み物の工夫(ジュース等)。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	薬剤師の指導を受けたり、消毒剤を使用し予防・対応している。	○	外部面会者の感染予防に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した器具・食器類は全て乾燥機にかけている。又、布巾等はその都度消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を生けたり、エレベーターホールを休憩・談話できるようにソファー等を設置している。	○	二階建てであり、施錠もしている為出入りの不自由さがある。小物等を使用し和やかな雰囲気づくりをしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるよう、壁画作りをしたり、草花を生けたりと工夫している。トイレの窓は隣接の病室の窓より見える為、スモークガラスやカーテンを使用している。	○	ハード面での改善が難しい為、出入りの不自由さがある。小物等を使用し、少しでも家庭的になるよう工夫したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室があり、気軽に団欒できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな家具等はないも、馴染みの布団の使用や写真や小物を置くだけとなっているが、入居者様にとっては居心地のよい居室となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	P-トイレ使用後にはすぐに処分。又、1日/週は洗浄・消毒し、異臭がないよう配慮している。入居者様がホールで過ごしている時間等を利用し、居室の換気を行っている。	○	玄関の換気が困難な為、開放の時間や芳香剤を検討したい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のレベルに合わせ、ご家族様と相談しつつ、家具等の設置場所を変更したりし、安全に生活できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	身の回りの生活用品は、馴染みのある物を使用しているが、破損したときにはご本人様と一緒に買い物に出かけ、好みの物を購入する等とし、混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、プランターで花を育て、水やりや手入れをしている。又、おやつや食事等を楽しむ事もある。	○	2階建ての為、階段の下り口に柵をする等、安全面に気をつけたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

4ユニットという利点を活かし、勤務時間をずらしニーズ対応できるようにサービスの質の向上に努めている。又、「話・和・輪」の理念をモットーに、入居者様からの声(希望)を聴き、活動範囲を広めている。